

それゆけ！ としょかんだより



2008年8月
第16号

発行所
高野山大学図書館
閲覧室

平成20年度第1回図書館文化講座の開催！

平成20年7月1日(火)16時40分より17時30分まで、本学205号教室において、平成20年度第1回図書館文化講座『古典籍への招待 一写し取った本と出版された本一』を開催した。

まず、古典籍について概要を説明し、出版された本(版本)と、写し取った本(写本)について解説した。

江戸時代の本は200部から300部売れるとベストセラーだという話や、奈良時代の「無垢浄光陀羅尼經(むごじょうこうだらにきょう)」は、わが国最初の印刷物で、現存するものでは世界最古という話や、片手で持てる大きさの百万基の木製の小塔の百万塔に納められた經典だということ。写本の奥書には、「誰がどこの誰のものを写した」ということを書いてある、ということなどを説明した。

参加者は9名だった。

図書館ニュース



今月の
ニュースは...



貴重資料のデジタル化開始

寄託本など貴重資料のマイクロ撮影は一昨年度までで終了し、昨年度から新たにデジタル化事業を展開している。近年、マイクロフィルムと印画焼き付け紙が高騰し、さらにはその印画焼き付け紙そのものの生産が中止となったことによる事業の変換であり、本学図書館も、デジタルプリントによる提供に変更した。画質は、マイクロ撮影のものに比べ、デジタルによるものが明らかに鮮明である。価格面でも一コマあたりの単価は、デジタルの方が安価となっている。

エコ・フィールド製の防虫・防カビ剤を導入

近年、パラジクロルベンゼン、及びナフタリンの人体に及ぼす影響が問題視されている。図書館においてもかわりとなる薬剤を探していたが、本年度より、天然素材100%のエコ・フィールド製防虫・防カビ剤の「バグレス」を導入することにした。同剤の主成分は、ひば材から抽出したヒノキチオールである。

全国書店売上
BEST10!
Yahoo!ブックス
毎月1日のラン
キングです。

7月

- 『夢をかなえるゾウ』
- 『B型自分の説明書』
- 『A型自分の説明書』
- 『AB型自分の説明書』
- 『おつまみ横丁』
- 『のぼうの城』
- 『脳を活かす勉強法』
- 『孤宿の人 上』
- 『明日もまた生きていこう』
- 『太王四神記公式ドラマ・ガイド 後編』

2008年7月の開館予定表

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
29	30	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	2

2008年8月の開館予定表

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
27	28	29	30	31	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	1	2	3	4	5	6

	9:00-18:00	13:00-18:00
	9:00-17:00	13:00-17:00
	9:00-12:00	閉館
	9:30-16:30	13:00-16:30

切り取り

第43回 佛教図書館協会総会の開催！

本学では、7月11日(金)、12日(土)の2日間にわたり、本学が当番校となり、同協会総会を開催した。これは、佛教図書館協会に加盟している全国の仏教系大学20校の図書館が集まり会議を行うもので、今回はその内の19校が集った。会議は本学藤村学長の開催挨拶から始まり、昨年度の佛教図書館協会の事業報告や本年度の事業案などが話し合われた。

今月のおすすめ図書！

※今月は生井智紹先生のおすすめです。

金山穆韶・柳田謙十郎 共著『日本真言の哲学』（大法輪閣, 2008年2月）

請求記号：407/ニ/57

近代仏教学史の上に金山穆韶師の占める位置は、いまさらながらだからこそ輝かしい。高野山大学学長、高野山真言宗管長を歴任されながら、弘法大師以来の高野山教学を身をもって代表されたお方である。弘法大師空海の主著である『秘密曼荼羅十住心論』および『秘藏寶鑰』は、高野山において伝統的に読み継がれ、その研究の蓄積も膨大なものがある。この書は、『秘藏寶鑰』の解説書として『高野山時報』に掲載されてきたものを、京都大学から西田幾多郎の哲学を非常勤講師として高野山大学で講じてきた柳田謙十郎氏が、感動をもって、内実を評価して表現を改め『日本真言の哲学』（初版は1943年に弘文堂書房より刊行）として、ひろく紹介された名著である。

近年、西田以来の京都哲学学派が国際的に評価され始めている。いっぽう、近代仏教学が疎外してきた伝統教学が復興されようとする機運も高まっている。その時期に、このような書が再版されることには、大きな日本思想史上の意味があると思われる。仏教がどう学ばれるべきか、真言密教の学がどうあるべきかを、問い直す時期であろうかと思われる。ことに、本書の柳田氏による「まえがき」に示される金山穆韶師のお姿が、その人によってこそ伝わる伝統のあり方を十全に示しているように思われる。

今月の…ぴか！



夏のお祭りにあがる花火。毎年楽しみですよ！花火って日本が作ったものだと思いませんか？実は違うんです。

花火は、中国で生まれました。花火といえば打ち上げ花火をイメージしますが、最初の花火はねずみ花火や爆竹に近いものが主流でした。それがヨーロッパに伝わり、権力のある領主や貴族などが打ち上げ花火にしました。

日本の花火の歴史ですが、ヨーロッパに伝わった花火が伝わってきたものではありません。日本に火薬が伝わった後、武器として火薬が使われ、戦国時代が終わり、江戸時代になり、火薬の扱い方を習得した下級武士が町人の仲間入りをして、線香花火のようなものを作りはじめた

夏の風物詩…花火！

のが日本の花火の始まりでした。江戸時代が過ぎ、明治時代に入ると、ヨーロッパから、色とりどりの花火が輸入され、今現在に至ります。



花火はいろんな国を通過して、こんな風になったんですね。

そういえば、花火が上がった時のかけ声「タマヤー」の由来ですが、江戸時代、鍵屋と玉屋の2軒の花火屋があって、毎年の川開きの大花火を、交代で行っていました。それで、花火が上がると、「鍵屋！」「玉屋！」と叫びました。ですが、ある時、玉屋から火が出て、大火事となり、玉屋がなくなってしまったそうです。なのに、今でも花火が上がると「玉屋！」という習慣が残っているんですね。不思議ですね♪

※参考にした資料は、

小勝郷右著『花火--火の芸術』（岩波書店, 1983年7月）
です。興味をお持ちの方は、どうぞご覧下さい。



（編集後記）今月号は、佛教図書館協会の準備などと重なって、たいへんでした…。でも、忙しい中、原稿を書いていただいた方、協力していただいた方、本当にありがとうございました！（森）

発行所

〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385 高野山大学図書館 閲覧室

Tel:0736-56-3835 / Fax:0736-56-5590 /

E-mail:service-lib@koyasan-u.ac.jp